

| 課題 番号 | 試験研究課題名 及び実施研究機関 | 実施 期間 | 研究概要 | 評価所見 | 総 括 評 価 | 研究成果の行 政施策・措置へ の反映方針 |
|--------------|--|-----------|---|--|------------------|--|
| 20331 026 | 臭化メチルの代替 の消毒方法の確立 及び安全性の確保 (新たな消毒方法 の評価・選定に係 る研究) 【実施研究機関】 (一社)日本くん蒸 技術協会 | R2～ R3 | <p>(背景・目的)</p> <p>日本における輸入植物への消毒措置としては、主に臭化メチルクん蒸処理が行われているが、臭化メチルはオゾン層破壊物質に指定(モントリオール議定書)されていることから使用削減が求められているところ。</p> <p>そこで、輸入後、直ちに加工処理が行われる穀物類(トウモロコシ、モロコシ、小麦、大麦)、豆類(大豆)を対象に、薬剤を用いない消毒方法として加工処理工程(加圧蒸煮、圧ペン処理)での消毒効果(有効性)、消毒対象物への影響を評価し、臭化メチルに代わる消毒方法を開発する。</p> <p>その結果、臭化メチルクん蒸に代わる薬剤を用いない消毒方法の導入により、環境への負荷の低減及びより安全性の高い飼料、食品の供給が図られる。</p> <p>(研究項目)</p> <p>①加工工場における製造工程、処理条件、実用可能性等の調査 ②実用性の高い処理工程の消毒効果の有効性の検証</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ 輸入後、直ちに加工処理が行われる穀類、大豆を対象に、国内加工工場における製造工程、処理条件を調査(加工工場の実態調査、文献や関係資料の調査)し、蒸気処理等の消毒効果の有効性を確認した。 ・ covid-19 の感染拡大により国内加工工場の実態調査が十分に実施できなかったが、代替として文献や関係資料調査を行う等、計画の見直しは概ね適切に実施された。 ・ 今回得られた成果を輸入検査現場に導入するに当たっては、病害虫の分散防止措置の検討(輸入から加工工場への搬入、搬入後の加工処理過程までの密閉状況などの付帯設備の状況)が別途必要である。また、加工工場には大小さまざまな規模の工場があることから、再現性の確認試験等が必要と考える。 | B | <ul style="list-style-type: none"> ・ 殺虫試験の結果の精査及び必要な場合は追加試験の実施 ・ 輸入から加工処理までの過程の病害虫分散リスク等の検討・調査 |